

事業報告

平成19年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当期の日本経済は、工業生産の好調に支えられた設備投資の増加、雇用情勢や企業収益の改善などにより「緩やかな改善」が続きましたが年度末近くになって景気悪化への足踏み状態が見られました。東海地域は活発な生産活動を背景に、11月のドラゴンズの全国制覇セールなど個人消費にも一段と改善が見られ、景気回復の全国的な原動力となっています。

このような経営環境のもと、塔下広場であるタワースクエアでの賑わいは冬場の厳しさはあったものの都市公園内の賑わいとして定着するなど年間を通して平成18年6月のリニューアル効果が十分に発揮されました。また、タワーステージ、パークギャラリーを使った「懐かしの名古屋まつり展」や塔体を使用した名古屋港開港100周年記念事業のキャラクター「ポータン」の掲示など新しい取り組みを進めてまいりました。秋から年末にかけては、「展望の日」（10月1日）をきっかけとして絵手紙コンテスト、社員の提案と手作りによる「観月会」、クリスマスには久屋大通公園イルミネーションなど多彩なイベントを開催いたしました。この結果、当期における有料入場人員は235,445人（前年に比べ7.5%減）となりました。

これにより、当期における売上高は305,271千円（前年に比べ3.6%増）、販売費および一般管理費は228,027千円（前年に比べ13.0%減）となりました。したがって、営業利益は77,243千円（前年営業利益32,522千円）となり、税引き後の当期純利益は71,163千円（前年当期純利益16,335千円）となりました。株主の皆様には誠に心苦しい限りでございますが、さらなる経営の安定化を図るため、前期に引き続き今期も無配とさせていただきますので、ご理解の上、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

当社は17年度から再建計画をスタートさせ、久屋大通公園の賑わいの創出、テレビ塔の新しい活用、市民へのサービス強化などとともに財政基盤の安定化を図ってまいりました。この実績を平成23年度以降の名古屋テレビ塔のあり方の検討に活かし、21世紀・新しい魅力をもった名古屋テレビ塔の創出ならびに会社の存立基盤の強化を進めてまいります。一方、本年度もテレビ電波の送信という基本的な使命につきましては、開業以来無事故を継続することができました。引き続き、送信設備のきめ細かい巡回点検や塔内外の監視体制の強化などにより、一層の事故防止策と安全対策を進めてまいります。

平成20年度は「名古屋テレビ塔の将来を掴む」5か年計画の3か年目としましてテレビ塔誕生の精神に立ち返り、役職員一同心新たに社業の継続と発展に専念いたす所存でございます。株主の皆様におかれましても、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。